



問 伊勢湾における水産物の不漁について問う

現在、伊勢湾ではアサリの漁獲量はゼロ、バカ貝の漁獲量もほぼゼロの状態が続いている。また、イワシについても、カタクチイワシは取れるもののマイワシの漁獲量が減っているのが現状であり、令和7年はマイワシが少し増えてきたとはいえ、5年前に比べると5分の1にも満たないと聞く。

そこで、水産物の不漁の原因究明を行っているのかを問う。

答 複数の要因が影響し、不漁につながっていると考えられる

伊勢湾では過去に水揚げがほとんどなかった魚が取れるようになり、魚種にも変化が生じている。

伊勢湾の不漁の原因究明を行っている三重県水産研究所によると、干潟・藻場の消失により生物の生育環境が減少し、海の浄化機能が低下していることや、海水の表層と低層の温度差が大きく異なると低層で貧酸素水塊が発生すること、栄養塩類が減少したことにより生物の生育に必要な栄養分が不足することなどが水域の生態系や生物の多様性・生産性に影響しているとのことであり、これら複数の要因が影響することで不漁につながっていると考えられる。

その他の質疑・質問

- 第44回全国豊かな海づくり大会について
- 津市としてどのような支援を行うのか
- 津市による商品開発の支援について
- 農産物について
- 物産について
- 香良洲海岸の松枯れについて
- 現在の進捗状況は

▶
令和7年8月20日の白塚漁港でのマイワシの水揚げ状況



問 一志団地に近接する波瀬川河川敷の竹林伐採について問う

一志団地に近接する波瀬川河川敷に竹林が繁茂し、河川氾濫への影響が懸念されている。伐採するには、重機の搬入や伐採した竹を搬出するための仮設ルートの確保も必要であり、しっかりとした計画や予算取りが必要となるが、今後の見通しはどうか。また、これ以上放置すると河積阻害による災害はもちろん、さらに伐採費用が増加し、税負担が増えるが、どのように考えているか。

答 国と十分に協議し、必要に応じて対応を求めている

一志団地付近の波瀬川河川敷の竹林については地元からも要望が寄せられているが、河川管理者である国からは、波瀬川の河道掘削は上下流、本支川間バランス等を考慮し、雲出川水系全体の優先順位を勘案しつつ整備を進めていく予定であり、引き続き点検や河川巡視等により河道状況を把握し、適切な維持管理に努めると回答されている。

この竹林は、河道内に繁茂しており、洪水時の河積阻害や河川管理施設への影響がないとはいえないが、竹林の状況も見ながら整備を進めていくと聞いており、国と十分に協議し、必要に応じて対応を求めている。

その他の質疑・質問

- 波瀬地区における買物支援について
- ペットの同行・同伴避難について
- 一志地域における工業団地の造成について
- 次世代地熱発電の可能性についてのイベントの開催について
- 公用車の運用について
- 車両リース、ガソリンカードの導入について

▶
波瀬川河川敷に繁茂する竹林（一志団地付近）

